

Semester 留学便り 9月 引率教員版

【はじめに】

今期の中国天津市南開大学での Semester 留学も、すでに一ヶ月が過ぎました。

参加者は 38 名、全員中国文学科の 2 年生です。例年より 10~20 名ほど多いため、前年度からの変更点も幾つかありますが、授業は順調に行われています。

後述するように、今月は日中関係の緊迫化という情勢の変化がありましたが、天津市内も大学内も混乱はなく、学生たちもやや緊張を強いられたものの、無事に過ごすことができました。

Semester 留学便りには学生版もありますので、こちらはその補足を中心にしていきます。

大学HPの取材日誌にも留学の様子を紹介していますので、そちらもご高覧下さい。

【行程・行事】

8月30日（木） 日本出国と中国入国

羽田空港発の J L 023 便で北京の首都国際空港へ。南開大学からの迎いのバスに乗って、二時間ほどで南開大学に到着。当日の夕食は各自でとりますので、早速中国人との会話が試されます。

8月31日（金）現地オリエンテーションと学内見学

現地での注意事項などを確認した後、学内の主要な場所（漢語院・学食・銀行・市場など）を見学します。

天津に着いてから二日ほどは蒸し暑く、広い学内を歩き回ると疲れも益しました。

南開大学の敷地は東西に長く、東門から西門まで歩くと 30 分以上はかかります。また、留学生用の六階立ての宿舎にはエレベーターがないので、上階の部屋を割り当てられた学生は自然と足腰が鍛えられます。

9月3日（月） 開学式

漢語院のホールで、開学式が行われました。漢語院の担当教員と始めて顔を合わせます。また、学生代表として男女各一名が中国語で挨拶をしました。

9月4日（火） 授業開始

9月7日（金） 語学パートナーとの顔合わせ

9月8日（土） HSK

HSKとは、中国政府公認の中国語検定試験です。日本でも受験できますが、留学開始時と帰国前の12月に受験し、留学期間における学力の伸長の度合いを確認します。

【学修面】

授業に関しては、学生版に譲ります。

担当の教員は漢語院所属で、対外漢語研究教育の実績をもっています。今期は 5 名の女性教員が担当しています。学生は先生の名前を覚える前に、「前髪パツツン」「おでこ」等、特徴で呼んでいます。紛らわしい姓の先生がいるからだそうです。もう少し経てば先生の名前を正しく発音できるようになることでしょう。

授業は中国語で行われますが、まだ聴力が伸びていない学生もいるため、先生方はいかに聞き取ってもらうかを常に考えているようです。

【生活面】

水や食事という重要なものが日本とは違うので、多少の体調変化は仕方ありません。また、気温の変化も大きく、雨が降ると途端に寒くなります。日中の温度差もあります。

何人か病院に行った学生もいますが、これも得がたい経験でしょう。天津滞在中は、海外旅行保険の使える外国人向け診療所、中国人向け総合病院を主に利用することにしています。前者には日本人医師がおり、後者には医療通訳が付き添ってくれます。

【日中関係と安全対策】

9月11日の尖閣諸島国有化閣議決定を機に、中国での反日気運が高まりました。その週末から非公式に国辱日とされている9月18日を中心に、反日デモ等に巻き込まれることを警戒して学外への外出を禁止しました。

幸いなことに、天津市内では国内各地で見られたような暴動や激しい反日デモは起きず、18日に市内有数の繁華街（日本資本の商店がある）で小規模なデモが起きたのみで、それもインターネットを使用している人しか知らないようなものでした。

天津での生活が長い日本人によれば、天津の人は政治の話をしないそうです。また、南开大学の先生は、天津市政府の力が強いので大きな混乱は起きないだろうとも言っています。大学内も落ち着いています。

いくら学内が広くて生活可能であると言っても、長い間外に出られないと退屈してきます。今後も天津市内では大きな混乱はないだろうという見通しのもと、23日から学外への外出も解禁しました。ただ、街中には尖閣関係の掲示をしている店もあり、反日感情が収まったわけではありません。そこで、以下の点を注意事項としています。

- ① 乗車拒否の恐れがあるため、バスやタクシーでは日本語を使わないこと。
- ② 人の多い繁華街や観光地では日本語を使わないこと。語学パートナーと出かけるのが望ましい。
- ③ なるべく二、三人で行動し、大人数では出かけないこと。
- ④ 尖閣や反日関連の掲示のある場所には近づかないこと。

⑤ 人が集まっている場所には近づかないこと。

残り三ヶ月、日中関係に対して楽観的な見通しは立ちませんが、状況が好転することを願うばかりです。

【おわりに】

本来ならば、積極的に街に出て日本人として現地の人と交流し、日本への親近感や好感を抱いてもらうのも日中友好への些細な貢献になるのですが、今は逆に日本人であることを隠すようにしなければなりません。安全であることが大前提となりますが、中国のこのような一面を知ることができるのもまた留学の持つ意義なのでしょう。

一方、安全が確保された交流の場では、中国人の日本観を少しでも変えていけるように学生共々努力したいと思います。

また、学生版に見えるように、制約はあるものの学生はそれぞれに留学生活に適応しているようです。

この留学で単なる友好に止まらない日中関係というものを学び、両国に対する各自の視座を得て欲しいと思っています。

(引率者 佐川 記)